

第71回岩手芸術祭 映像フェスティバル
「市民による映画づくりの可能性を探ろう」



日程:平成30年11月11日(日)14:00開演
*開場は開演の30分前

会場:もりおか町家物語館 浜藤ホール
(盛岡市鉦屋町10-8)

料金:一般前売1,000円 一般当日1,200円
学生前売500円 学生当日600円

問合せ:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
TEL 019-656-8145 (平日10:00~18:00)
Mail info@iwate-arts.jp

プレイガイド:もりおか町家物語館/風のスタジオ
プラザおでっ/カワトク/Cyg art gallery

主催:岩手県・岩手県文化振興事業団・岩手県芸術文化協会・岩手日報社・IBC岩手放送・テレビ岩手めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフエム岩手

運営:第71回岩手県芸術祭実行委員会・岩手県演劇協会
運営協力:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

・「アーツいわて塾 映像制作講座」での製作作品(5分×2本)

上映と解説(解説:千葉真一)

・映画「蛾と笹舟」上演60分

・短編映画「Message~ぼくらの夏休み~」上演29分

(製作:あいづっこ人材育成プロジェクト実行委員会)

・ゲストトーク及びディスカッション

「市民による映画づくりについて」

司会 東海林千秋

ゲスト 板屋宏幸(映画監督)

千葉真一

(アーツいわて塾映像制作講座講師・カメラマン)

ディスカッション 進行 坂田裕一

出演 板屋宏幸、千葉真一、東海林千秋

いわてアートサポートセンター



風のスタジオ公演情報

岩手大学落語研究会 善し悪し単独ライブ 「善し悪し」

日時 12月1日(土)18時開演(開場は開演の15分前)

料金 前売500円 当日600円 出演/善し悪し・なつめぐ

【問合せ】 ochiken_iwatedai@yahoo.co.jp

岩手大学劇団かっぱ 2018年冬期公演「4つ打ちノーザンロック」

日時 12月8日(土)14時~18時~

9日(日)11時~14時~(開場は開演の30分前)

料金 一般前売1,000円 学生前売800円 高校生以下500円

*当日券は前売の200円増

*リピーター割 公演の半券提示で500円で観劇できます

【問合せ】 080-9070-6693(制作部) Kappa_iwatedai@yahoo.co.jp

鉦屋町界隈イベント情報

町家の収穫祭

~盛岡町家 de フレンチ料理を楽しむ~

日時 2018年11月17日(土)12時~

会場 盛岡町家 三瓦亭(鉦屋町9-35)

料金 3,800円(税別) 定員30人

ゲストシェフ 伊藤 勝康氏

【問合せ】 019-656-1603(大慈清水御休み処)

主催 特定非営利活動法人 盛岡まち並み塾



発行者 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

【本部】

〒020-0874 盛岡市南大通1丁目15-7 南大通ビル3階

TEL (019)656-8145 FAX (019)656-8146

E-mail info@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp

【肴町事務所・風のスタジオ】

〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卯ビル3階

TEL (019)604-9020 FAX (019)604-9021

E-mail kaze@iwate-arts.jp URL http://iwate-arts.jp

〈窓口営業時間〉火・水・金 10:00~18:30 木・土 10:00~17:00

〈施設利用可能時間〉9:30~21:30

【もりおか町家物語館】

〒020-0827 岩手県盛岡市鉦屋町10-8

TEL (019)654-2911 FAX (019)654-2913

E-mail machiya@iwate-arts.jp URL http://machiya.iwate-arts.jp

〈開館時間〉9:00~19:00(最終入館18:30) ※浜藤ホールのみ利用時は21:30まで

〈休館日〉毎月第4火曜(休日の場合はその翌日) 年未年始12/29~1/3

〈入館料〉無料 ※一部企画展は有料の場合があります。

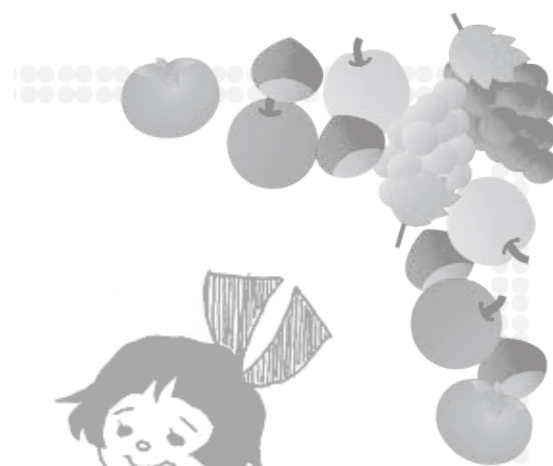
◎プレイガイドをご利用下さい!

肴町事務所・風のスタジオ窓口と、もりおか町家物語館案内所には、プレイガイドを設置しております。販売手数料5%(消費税込み)で、イベントチケットをお預かりしております。直接ご来館のうえ、職員にお声がけください。



もりおか町家・風の通信
11月号

食欲の秋・・・!!



当館キャラクター
マチコちゃん♪





盛岡芸妓

お座敷体験講座



もりおか町家物語館

日時 11月24日(土) 12:00～13:30
 【料亭京極のお弁当付】
 場所 もりおか町家物語館 浜藤ホール(椅子席)
 料金 5,400円
 申込み 窓口・電話・FAX・メールのいずれかの方法
 で、下記へお願いいたします。(定員30名)
 問合せ (公財)盛岡観光コンベンション協会
 TEL 019-621-8800 FAX 019-653-4417
 主催 (公財)盛岡観光コンベンション協会
 盛岡芸妓後援会
 (特非)いわてアートサポートセンター

第5回 森 荘已池 (もり そういち) 劇場 劇団赤い風 第80回公演 語りと生演奏と人形によるリーディングシアター 「生と死と」

原作 / 森 荘已池 脚本・演出 / 坂田裕一

岩手県初の直木賞作家、森 荘已池が戦後初めて書き下ろした作品を上演します。

日時 12月15日(土) 14:00/18:00
 16日(日) 14:00
 *開場は開演の30分前

場所 もりおか町家物語館 浜藤ホール
 料金 一般前売 1,200円 / 学生前売 1,000円
 (当日は前売の300円増)

出演 大森健一・おきあんど・坂戸公輝・佐藤結子
 清水友博・霜月漣・東海林めあり・永井志穂
 沼田永和・メグミ・目黒千恵子

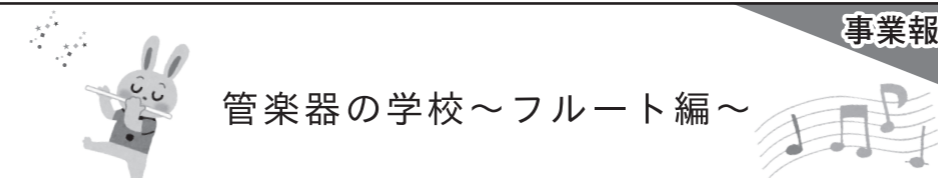
【予約方法】

電話またはメールにて以下をお知らせ下さい。

- ①お名前 (漢字表記 / フリガナ) ②ご希望枚数・券種
- ③ご連絡先お電話番号

*メールの件名は「生と死と チケット希望」でお願いいたします。

事業報告



管楽器の学校～フルート編～

10月20日(土)に「管楽器の学校～木管楽器フルート編～」が浜藤ホールで開催されました。講師にはフルート奏者の牧野詩織さん、石川深理さん、山崎鮎子さんをお招きし、どれも聴き馴染みのある曲目を、フルートの素敵なアンサンブルで演奏していただきました。楽器体験コーナーでは参加者がピンや塩ビ管フルート等を用いて、出演者と「山の音楽家」を一緒に演奏し、音楽をより身近に感じていただけました。ご参加くださった皆さま、そして講師の皆さま、誠にありがとうございました。



もりおかお酒の学校

第2回 ビールの歴史とホップの話

★岩手ウィート ★アップルラガー ★ヴァイツェン

日時 11月7日(水) 19:00～20:30 *開場・受付は20分前から
 講師 鳶田 洋一 氏 (株式会社ベアレン醸造所専務取締役)
 会場 もりおか町家物語館 浜藤ホール (定員24名 / 要申込)
 受講料 3,000円 *3種のビール、パンつき
 【申込方法】 電話またはメールにて、以下をお知らせ下さい。
 ①お名前 (漢字表記 / フリガナ) ②年齢 ③ご連絡先お電話番号
 ※メールの件名は「ビール編 11月申込み」でお願いいたします。
 TEL:019-654-2911 mail:machiya@iwate-arts.jp



カフェ DOMA

二人展～村井 資・暁子～
 11月11日(日)～12月1日(土)

営業時間 / 11:00～16:00
 定休日 / 毎週火・水曜日

※営業時間外も、施設開館中は見学可能です。
 ※臨時休業の場合もございます。
 営業時間はホームページ等でご確認ください。



冬季メニュー ホットワインはじめます



休館日・11月27日(火)

◆大正蔵 営業時間変更のお知らせ◆

11月1日～3月31日 冬季営業時間 10:00～17:00となります

リレーコラム No.31 第5回 森 荘已池 劇場

もりおか町家物語館の開館と同時に始まった「森 荘已池 劇場」は、物語館のある鉾屋町で生まれ育ち、暮らし続けた森 荘已池さんの作品顕彰の場です。

これまで行われた4回の森 荘已池 劇場の中で、劇団赤い風が紹介してきた作品は、「蛾と笹舟」「店頭」「花どろぼう」「雪明り」「春谷暁臥」の書かれた日」「氷柱」の6作品。上演の手法も、作品を地の文までまるごと台詞化する“物語る演劇”、人形と役者による“現代人形浄瑠璃”、映像と語りによる“現代版活動写真”などなど、森 荘已池の世界を表現するのにふさわしい方法を模索してきました。

さて、5回目となる今回お送りする作品は、「生と死と」。

この作品、直木賞作家の森先生が、戦後初めて書き下ろした作品で、昭和22年7月に、札幌の玄文社から出版されたものです。(この本には、戦前に書かれた他の2作品も添えられていました。定価は25円。駅弁が約10円の時代ですから、少々高めかもしれません。)

作品の舞台は盛岡。戦中、盛岡は、駅近くに焼夷弾を落とされたものの、東京や仙台、あるいは釜石などのような大きな被害はなく、昔の佇まいを残したまま戦後を迎えることができました。盛岡城付近、桜山神社から中の橋までは、闇市が軒を並べ、進駐軍もその近くに陣取るなど、喧噪な雰囲気を醸し出していたとのこと。物語には、鉾屋町や寺院街の北山界限も登場します。戦後間もない盛岡の様子が想像され、昔の盛岡を知る人には、地名が出てくるだけで懐かしくなるのではないのでしょうか。

物資も食べ物も少ない時代、闇市で出会った復員兵と2人の子ども。そこでの悪意のない行為が彼と子どもたち、そしてその母親の運命を翻弄します。

今回は、この作品を「語り」と「生演奏」、それに「人形」を交えた“語りと生演奏と人形によるリーディングシアター”としてお届けします。しばらく活動を休んでいた懐かしい劇団員も久しぶりの舞台に立ちます。お楽しみに。

劇団赤い風 代表 大森健一